

**「CDP気候変動」において
最高評価の「Aリスト企業」に選定**



CLIMATE

この高解像度画像は <https://www.suntory.co.jp/news/index.html> に掲載しています。

サントリーホールディングス（株）は、環境情報開示システムを提供する国際的な非営利団体であるCDPから高い評価を受け、「CDP気候変動2021 Aリスト企業」に選定されました。また、グループ会社であるサントリー食品インターナショナル（株）は、「CDP水セキュリティ2021 Aリスト企業」に6年連続で選定されました（ニュースリリース No.SBF1194 参照）。

CDPは、企業や都市の重要な環境情報を測定・開示・管理・共有するための国際NPOで、その年次の環境情報開示と評価プロセスは、企業の環境情報開示におけるグローバルスタンダードとして広く認知されています。今年度は、運用資産総額が110兆米ドルとなる590社強の機関投資家と、調達総額が5.5兆米ドルとなる200社の大手購買企業がCDPのプラットフォームを通じた環境情報の開示を求め、過去最高の約13,000社の企業がこれに応じました。

サントリーグループは、気候変動について、2050年までにバリューチェーン全体で、温室効果ガス（GHG）排出の実質ゼロを目指しています。その達成に向け、2030年までにGHG排出量を自社拠点で50%削減^{※1}、バリューチェーン全体で30%削減^{※1}する「環境目標2030」を掲げ、さまざまな取り組みをグローバルに進めています。

今回の認定は、従来の省エネルギーの取り組みに加え、GHGを排出しない再生可能エネルギーの導入、今年5月に稼働したサントリー天然水 北アルプス信濃の森工場がCO₂排出量ゼロ^{※2}であること、ボトルt oボトルリサイクルにおいてサプライヤーと共同開発したCO₂排出量低減と再生効率化を同時に実現する「FtoPダイレクトリサイクル技術」などが総合的に評価されたものと考えています。

今後も、「環境目標2030」達成に向け、2022年までに、日本、米州、欧州の飲料・食品および酒類事業に関わる全ての自社生産研究拠点63箇所で、電力を100%再生可能エネルギーに切り替えていく目標や、内部炭素価格の運用開始、設備投資を含む1,000億円規模の関連投資など、さまざまな取り組みを推進し、グローバルな社会課題の解決に向け、グループ一丸となってサステナビリティ経営に取り組んでいきます。

※1 2019年の排出量を基準とする

※2 省エネ推進や再生可能エネルギー導入、化石燃料由来CO₂の排出をオフセットするクレジットの活用などにより、製造工程におけるCO₂排出量を実質的にゼロとする工場

▼サントリーグループのサステナビリティ

<https://www.suntory.co.jp/company/csr/>

▼サントリーグループの環境負荷低減活動

<https://www.suntory.co.jp/eco/teigen>

▽本件に関するお客様からの問い合わせ先

サントリーホームページ <https://www.suntory.co.jp/>

以 上

水と生きる SUNTORY

「水と生きる」は、私たちがお客様や社会と交わす約束です。
貴重な水を守り、水を育む自然環境を次世代につなぐこと。商品やサービスを通じて人々の心を潤すこと。
水のように柔軟に力強く新たな価値創造に挑戦すること。
これらの約束を果たすため、私たちは様々な活動に取り組んでいます。